

秋季におけるオオルリシジミ生息地での野鳥調査

丸山和麻

• はじめに

今回、秋も深まる昨年（2016年）11月20日、飯山市内のオオルリシジミ生息地において、野鳥調査を行った。SL（蒸気機関車）が飯山を走る日と重なり、汽笛の音と野鳥たちの地鳴きが聞こえる趣のある調査となった。

• 調査方法

観察道（調査ルート）を歩きながら双眼鏡や望遠鏡を使用して、野鳥の姿、声から種類の判別を行うラインセンス法で行った。

天候は小雨まじりのくもりで、13時から15時まで約2時間調査した。

• オオルリシジミ生息地の野鳥たち

オオルリシジミ生息地の上部から下方に向けて出発。最初にカヤの中からホオジロ、カシラダカなどのホオジロ類が確認された。前者のホオジロは留鳥であり一年中確認できる種で、農耕地や山地に普通に生息する。後者のカシラダカは冬鳥であり飯山市には10月の終わり頃、東日本に多く渡ってくる冬鳥で、農耕地や山地に飛来する。頭部に短い冠羽がある。カシラダカの名前の由来はそこからきた「頭高」である。

上空ではハシブトガラスが鳴きながら飛んでいた。

さらに歩き進むとカヤの中でウグイスが確認された。鳴き声は馴染みの「ホーホケキョ」ではなく、舌打ちをしたような「チッ」と鳴くため姿をみつけるのが難しいのもこの時期の特徴である。飯山市では漂鳥で春から秋には山地に生息し、冬には市街地や南へ移動する。

スキー場周辺のカラマツ林上空では冬鳥であるマヒワ、アトリが絶えず群れで飛び回っていた。

カラマツの針葉樹ではコゲラ、エナガ、シジュウカラ、ゴジュウカラなどの混群がエサを求めて移動する姿がみられた。

冬鳥であるシロハラ、ツグミなどは柿の木などをついばむ姿がみられ冬がもうすぐ来ていることを感じさせられる調査となった。



モズ



マヒワ

・まとめ

今回の調査で、2目 11科 21種の鳥類が確認された。

鳥類の相は市街地や農耕地、低い山に普通にみられる種が主であった。今回の調査日は秋から冬へ移りかわる時期であったためカシラダカ、シロハラ、ツグミなどがみられた。

オオルリシジミの生息地と知られる熊本県南阿蘇村や長野県東御市と違い、飯山市では鳥類の相が異なっていることがうかがえ、南阿蘇村、東御市ではこの時期必ず飛来し越冬する猛禽類のハイロチュウヒが確認されるのに対し、確認されなかった。狭い草地面積と冬の豪雪が主な理由と考えられる。



ハイロチュウヒ(オス・成鳥)

※オオルリシジミ生息地は灌木混じりの草原が残る里山林で、県絶滅危惧Ⅱ類の「ヨタカ」の繁殖地としても好適なようで、2011年に親鳥とヒナが確認されています(右の写真)。今後、オオルリシジミのみならず、鳥類を始め生物調査を定期的に進めながら当地の環境保全の必要性を包括的に検討していきたいところです。鳥類は渡りを行うものがあり、定期的に違いが見られますので調査観察会は引き続き実施してまいります。

また、北信濃にはオオタカ、ハイタカ、ハチクマ、サシバなどの鷹類、山地森林の渓谷に生息するコノハズクやアカショウビンなど注目すべき鳥類も見られ、併せて今後の動向を見守っていきたいと思います。

表 秋季にオオルリシジミ生息地で確認された鳥類

キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	
スズメ目	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	
	モズ科	モズ	
	ツグミ科		シロハラ
			ツグミ
	ウグイス科	ウグイス	
	エナガ科	エナガ	
	シジュウカラ科		コガラ
			ヒガラ
			ヤマガラ
			シジュウカラ
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	
	ホオジロ科		ホオジロ
			カシラダカ
アトリ科		アトリ	
		カワラヒワ	
		マヒワ	
		ベニマシコ	
カラス科		カケス	
		ハシブトガラス	

カラマツ林に囲まれたスキー場跡地の狭い荒地環境は、私がこれまで見てきた環境と大きく異なることが今回の調査で感じられ、見られる野鳥に影響するのか、今後も調査を続けたい。

最後に調査に参加していただいた方々、本文の編集をお手伝いされた飯山市教育委員会の小沢君に感謝する。



オオルリシジミ生息地で見られたヨタカのヒナ

お知らせ

「定期総会」と「オオルリシジミ継代飼育講習会」の開催

当会の2016年度事業実績の承認と2017年度事業計画を協議いただくため、以下のとおり3月11日（土）午後から「定期総会」を開催します。本年も昨年に引き続き、オオルリシジミの保全活動のほか、生息地のカヤ場利用や生物調査などを行いつつ、北信濃で当会と関係する地域の方々と連携を深めながら、「信越自然郷」をPRする幅広い活動を行っていきたいと考えます。総会では、今後の会の活動方針についての意見交換なども行う予定ですので、会員のみなさんからも、会の事業・活動に対して御要望・意見、里山保全活用のアイデアなどをお寄せください。

総会終了後は、オオルリシジミの継代飼育講習会を行います。講師には安曇野市在住で当会会員でもある丸山潔さん（元松本市山と自然の博物館館長）にお願いし、オオルリシジミの継代飼育による種の保存について解説いただきます。

飯山産オオルリシジミは本来の生息地が1箇所、今も絶滅の危険性が高く、人工的に種の保存を行っていく必要があります。これまで丸山さんに当地オオルリシジミの継代飼育を行っていただいております。戸狩地区で実施している本種の生息域外保全の放蝶にも、この継代飼育個体が用いられています。

丸山さんによると、本年度は交配や産卵、幼虫飼育が順調で蛹がたくさん得られたとのこと。

また、できれば飯山で本種当地産の継代飼育を行った方が種の保存上、望ましいとのこと、地元で継代飼育を希望される方、行ってもよいという方には丸山さんから蛹を分譲します。飼育方法についてはその後も必要に応じて飯山に来られ、御教示いただけるようですので、関心のある方は事務局までお知らせください。

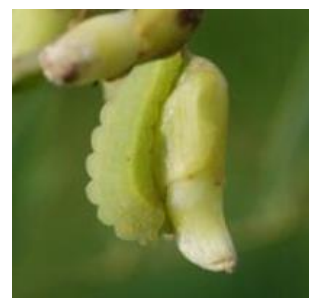
- 1 開催期日 平成29年3月11日（土）
- 2 場所（会場） 飯山市公民館205会議室（飯山市大字飯山1436-1）
- 3 日程

(1)「北信濃の里山を保全する会 定期総会」

- 13:00～ 受付
- 13:30～ 開会、あいさつ
議事（当年度事業報告・収支決算、次年度事業計画
・収支予算など）
意見交換など
- 14:20 閉会
休憩

(2)「オオルリシジミ継代飼育講習会」

- 14:30～ 開会、講師（丸山潔さん）紹介
オオルリシジミ飼育継代の方法解説
交配、産卵、幼虫の取り扱い、蛹の保管などのポイント
質疑応答など
- 16:00 閉会



オオルリシジミ幼虫（花崎さん撮影）

参加される方は、当会事務局の飯山市ふるさと館（TEL：0269-67-2030）へ3月6日まで御連絡ください。

年会費（1,000円）の納金を受け付けますので、御用意いただける方は、定期総会当日に受付でお支払ください。

活動報告など

・「2016 カヤ刈りワーキング」

恒例となりました「カヤ刈りワーキング」、2016年は11月12日に戸狩スキー場・「とんだいら」グレンデで実施の予定でしたが、そこはその週に降雪があり、ススキが折れて倒れてしまっ刈り取りは難しいとのことで、場所を急遽オオルリシジミの生息地に変更して実施しました。ここにも降雪はありましたが、ススキの雪折れは大してなく、当日は雪も消え暖かく好天でカヤ刈り作業もはかどりました。

本年も「小谷屋根」の茅葺き職人さんが講師として参加され、刈り取りなど御指導いただきました。

以前から言われているように太いススキは「カヤ」として適さないとのことで、茎が細い株を選んでの作業でした。生息地のススキは放任してきたせいか草勢が強くて太いものも多く、刈り取ったカヤを持ち出すことで、有機物の蓄積による肥沃化を抑え、カヤに適したススキになるよう生育を抑制する必要性がうかがえました。

また、本年も井田会長の教え子でもある信州大学の学生さんにも参加いただき感謝、人手が必要な作業ですので助かりました。カヤ刈りは11月20日の午前にも行い、午後は冒頭の野鳥調査観察会を実施しました。刈り取ったカヤは静間地区の荒船農村公園の炭焼き施設に保管、今春運び出しと出荷作業を予定しています。



カヤ刈りに参加いただいた学生さん

・日本チョウ類保全協会「チョウ類の保全を考える集い」に参加

2月11日、日本チョウ類保全協会が主催する「チョウ類の保全を考える集い」が東京都代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、当会の福本事務局長が「長野県飯山のオオルリシジミ」と題してチョウ類の保全活動報告を行いました。活動の経過や現状の取り組み・今後の課題に触れ、生息地のカヤの活用による持続的な保全活動には多くの方が関心をもたれたようでした。

今回の集いの特別企画として韓国の研究者・金聖秀氏から韓国のチョウ類の現状や保全に関する講演があり、韓国も日本同様、草原性チョウ類の深刻な減少傾向が見られ、韓国のオオルリシジミも例外ではなく、保全の必要性を訴えていました。



オオルリシジミの保全活動報告の様子

編集後記

「チョウ類の保全を考える集い」に参加し、協会の事務局や各地で保全活動に取り組む方々と交流することができて有意義なものとなりました。生息地のカヤの活用は持続的な取り組みとして評価をいただきましたが、活動をいかに継続させるべきか、10年、20年先の中長期的な視点で考えていくことも大切かと思えます。当会も本年で7年目に入り、将来に向けてあらためて協力をお願いいたします。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1 4 3 4 - 1
飯山市ふるさと館内
TEL/FAX：0269-67-2030
E-mail：furusato@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志